

子どもが遊べる川づくりプロジェクト

豊かな河川環境と生物多様性を守るため、子どもも大人も、川で「遊び・親しみ・学ぶ」ための支援活動をしています



晴嵐小学校・三田川中流の生き物調査(2024)
三田川の水は水質階級Ⅰと水質階級Ⅱの間と判定

＜川プロジェクトの活動＞

- ◇市内小学校4年生の「身近な川の水生生物調査から川について学ぶ」体験学習の支援
- ◇市内河川の水生生物観察会・市民環境塾・自然家族事業を開催
- ◇自主研修の観察会を実施



中央小学校・吾妻川下流の生き物調査(2025)
吾妻川下流の水は、水質階級ⅠとⅡの間と判定。



自然家族事業・大宮川の生き物調べ(2025)
大宮川は、水質階級Ⅰのきれいな水と判定。

＜川プロジェクトが伝えたいこと＞

- ・身近な川的环境やどんな生き物が住んでいるのかを調べる目的
- ・川の生き物調査(特に、指標生物)で、川の水質、川の健康を知ること
- ・大津の自然や川に目をむけ、川の生き物や川を大切にすること
- ・子どもも大人も川遊びに夢中になり、心をいやす川の魅力
- ・身近な川から、川をよりきれいにする取り組みや行動を考えること

* 身近な川の調査内容

川のように(水温、流れ、透視度、感触、におい、ごみ、周辺環境)
川に住んでいる生き物調査(特に指標生物に注目)、外来生物
パックテスト(COD)水質調査・生物指標と照合

指標生物とは、全国に分布し、みつけやすく区別しやすく、水の汚れに敏感な29種類の水生生物を水のきれいさの目安に、水質を4つの階級に分けています

水質階級	川の水のよごれ	指標生物
水質階級Ⅰ	きれいな水	アミカ類、ナミウスミシ、カワゲラ類、サワガニ、ナガレビケラ類、ヒラタカゲロウ類、フコ類、ヘビトンボ、ヤマトビケラ類、ヨコエビ類
水質階級Ⅱ	ややきれいな水	イシマキガイ、オオシマトビケラ、カワナナ類、ゲンジボタル、コオニヤンマ、コガタシマトビケラ類、ヒラタドロムシ類、ヤマトシジミ
水質階級Ⅲ	きたない水	イソコツブムシ類、タニシ類、ニホンドロソコエビ、シマイシビル、ミズカマキリ、ミズムシ
水質階級Ⅳ	とてもきたない水	アメリカザリガニ、エラミミズ、サカマキガイ、ユスリカ類、チョウバエ類

出典:環境省 全国水生生物調査のページ

おおつ環境フォーラムは、2001年に大津市環境基本行動計画「アジェンダ 21 おおつ」に基づいて設立され、2013年に法人格を取得、“特定非営利活動法人・おおつ環境フォーラム”が発足、市の指定事業をうけ大津市地球温暖化防止活動推進センターとしても事業を実施中。9プロジェクトや研究グループが活動をしています。会員約200名。

川プロジェクトは、2002年より「三田川の生きものマップ」作成を目標に、大津市晴嵐学区を流れる三田川を活動拠点に、上流・中流・下流で生き物の観察を始めました。2005年から、晴嵐小学校4年生の総合学習「地域の川の生き物調べ」の学習支援依頼を受け、これまで毎年150名程の生徒たちと一緒に三田川の川の生き物調査を続け、逢坂小学校、真野小学校、中央小学校でも川の調査の学習支援も毎年続けています。2016年には、晴嵐学区の三田川、逢坂学区の吾妻川、伊香立・真野・堅田学区の真野川の調査結果をまとめ、「河川の生き物マップ」3部作を発行し各小学校に配布、学習支援に活用しています。



★大津市 HP「かんきょう宝箱」でご覧いただけます。

＜おおつの、川は今＞

- ・擁壁が深く、コンクリート3面ばかり構造が多い
- ・川へ近づける親水構造が少なく、水遊びがしにくい
- ・農業用などの水利用が少ない川がある
- ・住宅地内の流れでは、暗渠も多い
- ・段差工が多く、魚道がほとんどない
- ・琵琶湖・瀬田川までの流域が短い
- ・土砂が堆積した上に散乱ごみや雑草が広がっている
- ・鉄分を含んだ地下水(赤水)で水質がわるい川もある
- ・住宅地では、私用橋など私的使用がある
- ・河口部では、琵琶湖の水位の影響がみられる

川岸や岸近くにいる水生生物



【川底】ヨコエビ類、コオニヤンマ、ゲンジボタル、ミズムシ、アメリカザリガニ、タニシ類、エラミミズ、ユスリカ類
【水草】ミズカマキリ、サカマキガイ

流れの中の石のまわりにいる水生生物



【肉食系】カワゲラ類ナガレビケラ類ヘビトンボヤマトビケラ類
【雑食系】フコ類ヒラタカゲロウ類ヒラタドロムシ類アミカ類
【雑食系】コガタシマトビケラ類

出典:国土交通省近畿管区(2024年度調査)水生生物で知る川の健康

指標生物の動画(抜粋)



動画:制作 川島大助(環境省 環境カウンセラー) <https://edu.env.go.jp/counsel/counselor/2016225002>